

第 123 回古民家歴史部会・歴史探訪

「新・東海道の宿場探訪シリーズ・第 18」

平成 29 年 12 月 1 日(水)

「平塚宿・大磯宿」

*集合：平塚駅西口(改札口) 9 時 50 分厳守同時出発

*解散：大磯駅

①お菊塚:怪談「番町皿屋敷」の悲劇のヒロイン・菊さん、実はここ、平塚宿の出身だったそうです。平塚の伝承によれば、お菊の遺骸は長持ち詰められ、馬入の渡しで父・源右衛門に引き渡された。源右衛門は刑死人の前例により墓を作らず、梅檀の木を植えて墓標代わりとした。この話が後日、番町皿屋敷の素材となったという。

②江戸見方見附跡:京方見附まで約 1.1km であり、この間に③脇本陣跡④高札場跡・東組問屋場跡⑤本陣跡⑥西組問屋場跡などがあるが、今は建物等はなく標柱があるのみ。

③脇本陣跡:大名の供人が多くて本陣のみに宿泊しかねるときなどの予備の宿舎。

④高札場跡・東組問屋場跡:東組問屋場は宿場ができてから 50 年後の慶安 4 年(1651)に新しくできました。

⑤本陣跡:江戸時代の宿場で、大名・幕府役人・勅使・宮門跡などが休泊した後任の宿舎。門構え・玄関・上段の間を備える大旅籠屋。

⑥西組問屋場跡:平塚宿ができた当時からありました。

⑦要法寺:日蓮宗寺院。境内に平塚の地名となった塚がある。

⑧春日神社:平塚本陣の鎮守社で、源頼朝が北条政子の安産祈願に神馬を奉納したといわれています。

⑨化粧井戸:虎御前が化粧に使った井戸がある。虎御前は仇討ちで有名な曾我兄弟の兄十郎裕成の妾。虎御前は遊女だったが、鎌倉時代の遊女は江戸時代の遊女とは違い「白拍子」といい、詩歌管弦に長じ、またその舞によって源頼朝にも認められたという。

⑩一里塚跡:化粧坂の一里塚。江戸から 16 番目。

⑪大磯八景の碑:江戸時代風光明媚であったことから、中国の瀟湘(しょうしょう)八景にちなんで大磯八景呼ぶようになった。
高麗寺**晩鐘**・小餘綾**晴嵐**・照ヶ崎**帰帆**・化粧坂**夜雨**・花水橋**夕照**・鳴立澤**秋月**・唐ヶ原**落雁**・富士山**暮雪**

⑫湘南発祥の地碑:この石碑は大磯町観光協会が、大磯

町が湘南発祥の地であることを広く顕彰するために建立。大磯町によれば、「湘南」の名は崇雪(そうせつ)が石碑に「著盡湘南清絶地」と刻んだのが最古の史料とされる。崇雪は西行を崇拝した俳人で、小田原からやってきて大磯に住み着きのちの鳴立庵(しぎたつあん)を構えた人物。敷地内に「鳴立沢」と彫って建てた石碑の裏に「著盡湘南清絶地」とも刻んでいる。これが根拠となって大磯町は、湘南と呼ばれるようになった。(大磯観光協会資料より)

⑬新島譲終焉の地:大磯海岸の潮風は病弱の人の療養には活路を開くあこがれの地であったことから、病に侵された新島譲はこの地に療養移転してきたが、その甲斐なく 46 歳 11 か月の若さで、生涯を閉じた。新島襄は同志社大学の前身、同志社英学校を開設し、その後同志社大学設立を企画していましたが、病のため早くに世を去ってしまいました。早稲田大学の隈重信、慶應義塾大学の福沢諭吉とともに明治の三大教育家として知られています。

⑭鳴立庵:**こころなき身にもあわは知られけり**

鳴立沢の秋の夕暮れ(新古今和歌)

平安末期の歌人・西行法師が大磯あたりの海岸を吟遊して詠んだといわれている歌です。江戸時代初期の 1664 年に小田原の崇雪(そうせつ)という人物が、西行のこの歌にちなみ、昔の沢らしい面影を残す景色の良いこの場所に鳴立沢の標石を建てました。京都の落柿舎、滋賀の無名庵と並び日本三大俳諧道場の一つ。

⑮澤田美紀記念館(旧岩崎邸):三菱財閥の創始者・岩崎弥太郎の孫として生まれ、令嬢として育った澤田美喜は、熱心なクリスチャンで、外交官夫人としての体験なども手伝い、戦後の混乱の中でアメリカ占領軍兵士との間に生まれた混血児の救済と養育のためにエリザベスサンダースホームを設立しました。エリザベスサンダースは最初に 170 ドルを寄付した人の名前。

